

平成28年度 小学校・中学校・高等学校の先生との 福祉学習に関する懇談会 報告書



日 時：平成28年8月18日（木）午後1時30分～午後4時

会 場：麻生市民館 3階 第1会議室

参加者（1）麻生区内小学校・中学校・高等学校の先生	11名
（2）ボランティア活動振興センター運営委員会委員	2名
（3）柿生地区・麻生東地区社会福祉協議会関係者	4名
（4）麻生区社会福祉協議会各部会員	12名
（5）福祉教育推進委員会委員	11名
合計	40名

主 催：社会福祉法人川崎市麻生区社会福祉協議会

ボランティア活動振興センター 福祉教育推進委員会

開会あいさつ

福祉教育推進委員会 委員長 武村 桂子

社会福祉法人川崎市麻生区社会福祉協議会では、麻生区ボランティア活動振興センター運営委員会の小委員会として「福祉教育推進委員会」を設置しており、学校関係者・PTA・福祉施設・当事者団体・ボランティアグループなど地域の様々な立場の方で委員会を構成し、地域全体での福祉学習の取り組みについて検討しています。

この懇談会は、麻生区内の福祉学習を推進するため、小学校・中学校・高等学校の先生方と福祉施設・当事者団体・ボランティアグループなどの代表者として懇談する機会を持つことにより、福祉学習の意義について理解を深めるとともに、福祉学習を推進する上での課題を明らかにし、課題解決のために必要とされる方策について皆さまと一緒に検討することを目的に開催しています。

本日は、様々な立場の方にお集まりいただいております。福祉教育を実施するにあたって児童・生徒に「福祉」とはどのようなものか理解してもらう方法や困りごとや課題などを皆で出し合い、他の方からのいろいろな知恵をいただいて、それを解決していく場になればよいと思っています。どうぞ活発にご討議いただいて、何か成果をお持ち帰りいただければ幸いです。



講義「福祉教育の今日的意義」

田園調布学園大学 人間福祉学部 教授 鈴木 文治
(福祉教育推進委員会委員)

～県立津久井やまゆり園の障害者殺傷事件をどうみるか～

日本はつい到这里まで来てしまったのかと危機感を持っています。学校の中で人権教育はどれだけ行われているのかという事が問われています。人権が守られるという事は人類普遍の原理だが、この事件では、いとも簡単に乗り越えられてしまいました。生きるという事は権利であるということを、子どもたちに伝えていくためにも徹底した人権教育が必要だと思えます。

インクルーシブ教育とは、障害などの課題を持っている子どもたちを、障害をもっていない子どもたちと一緒にして、お互いが理解し、支えあうという事を目

指す教育です。障害を理解し、支えあうという教育をしっかりとしていかないと、こういった悲惨な事件が起こるといふ事だと思います。



インクルーシブな社会の中では、みんな障害者です。健常者と障害者をわけるということは出来ない。そういった考えの中で、日本のこれからの社会を考えていかないといけません。困った人たちを助ける。福祉のこころを持つという事を、今の大人たちはしっかりと伝えてきたのであろうか。やまゆり事件の加害者のような人を育てないという事。福祉教育とは、障害についての正しい理解をもつ事、色々な人たちとたすけあってく社会をつくっていく事

が、一番大切な意味だと思います。

今の時代が非寛容で排除や差別がある社会になっていますので、これからは福祉教育にもっと力を入れていく必要があります。

～福祉教育とは何か？～

福祉とは「幸せ」や「豊かさ」を意味する言葉です。福祉教育は他人の幸せ、周囲の人を大切に育てる心の育成を目指すもの、困っている人たちを助けるという気持ちをいかに育てていくのかが福祉教育の中心になります。神奈川県では、30年前から「共に学び共に育つ」という理念を打ち出しています。一人ひとりの違いを認め合う共生社会の実現に向けた教育活動。共生社会の形成者を育成することが福祉教育の目的です。福祉教育は学習指導要領にも明記されていますが、位置づけが曖昧であったり、時間が取れない、障害者や高齢者について理解し指導できる人が学校の中にいないという課題があります。

～区社会福祉協議会の役割～

麻生区社会福祉協議会が学校の福祉教育を補完する取り組みをしています。具体的には障害者や高齢者の体験事業の実施、車いすや高齢者疑似体験セットなどの用具の貸出。障害をお持ちの当事者が生徒の前で、どういう事に困っているのか、どう支えてほしいのかを直接、話をする機会をつくる取り組みを行っています。また、田園調布学園大学と共同で、大学にある障害に関する図書やビデオなどの資料の一覧を作成しました。大学では貸出をしていますので、ぜひ活用して欲しいと思っています。また、社会福祉協議会ではボランティアの養成や活動の支援も行っています。児童生徒のボランティア体験の支援も行っています。

～福祉教育の今日的意義～

「インクルージョン (inclusion)」という言葉ぜひ覚えてください。「イン

「インクルージョン」とは一言でいうと「排除しない社会」という意味です。反対語は「イクスクルージョン (exclusion)」で「排除」という意味になります。排除しないという事は、自分とは違う人に境界線を作らない、どんなに違う人でも一緒にやっていこうという考え方です。障害だけでなく、民族や高齢者など、色々な課題を抱えている人を排除しないという社会を作ろうということです。

最初、インクルージョンは高齢者の問題から始まりましたが、今では教育現場でも広がってきており、障害を持っている人たちを排除せずに一緒に教育を受けられるようにしようという考えになってきました。

様々なニーズのある人々が受容される社会、障害や障害者という言葉がなくなる社会、自然と支えあっていけるような社会を「インクルーシブな社会」と言います。これからは、神奈川県でもインクルーシブ教育という事で、障害がある子どもと、障害のない子どもたちが一緒に学ぶという機会が増えていくこととなります。

インクルーシブ教育とは、障害がある人だけの問題ではないということも頭に入れておいて欲しいです。いじめ、不登校、ひきこもり、中途退学、非行という問題をインクルージョンの観点から見ると、こういう人たちをしっかりと受け入れていくという事が、結果的に、インクルーシブ教育になっていくという事になります。

田園調布学園大学と麻生区では、今年から協定をむすび、福祉の街づくりをするための事業を協働で行う事になりました。一人暮らしの高齢者の支援、ひきこもり対策、認知症サポーターの3つを考えています。大学と麻生区だけでは難しい部分もありますが、今日は地域の人たちもたくさんいるので、一緒に取り組んでいただければありがたいと思っています。



県立やまゆり園の事件は、私たちに何を訴えているのか、非常に大きな問題だと思います。排除しないで受け入れていくという確たるものがないと、どんどん生きづらくなっていくのではないのでしょうか。

福祉教育は学校教育の中で非常に重要な位置にありますが、学校だけで取り組むのは地域の福祉情報などが少なく、時間的な制約などもあって難しい状況にあります。そこで地域の社会福祉協議会と一緒にあって取り組んでいければ、より良いものになるのではないのでしょうか。

福祉教育担い手側の話

「車いす体験について」

ボランティアグループ ささえあい麻生 相澤 美津子 氏

私たちは、麻生区内の介護福祉士が中心となって高齢者を支えるという目的で立ち上げたボランティアグループです。普段はヘルパーやケアマネージャーなどの介護の仕事をしています。ボランティアとして、社会福祉協議会を通じて車いす体験、アイマスク体験、高齢者疑似体験をお手伝いさせていただいております。依頼が秋ごろに集中することが多く、メンバーはみんな仕事をしているので、調整が難しいときがありますが、学校の希望にそえるようがんばっています。「車いす体験」の時には、使い方によっては危険もあるので、安全な使い方というものを意識して説明をしています。学校には一度打ち合わせに伺って、安全に分かりやすい授業になるように取り組んでいます。

「聴覚障害者の講義について」

麻生区聴覚障害者協会 森 都 氏

私たちは「手話」の紹介をする授業に、麻生区内の手話サークル「槇の会」「イルカ」と連携して協力しています。福祉教育では小学4年生に教えることが多いので、子どもたちにも分かるように「聴覚障害」や「手話」についての話をしています。まず、聞こえない人とのコミュニケーションをどうするのか、「筆談」や「指文字」などの方法を子どもたちに考えてもらっています。「手話」や「口話」、「身振り」、「筆談」など色々な方法があるという事を伝えています。また、聞こえない事による「不便さ」についても子どもたちに考えてもらっています。その中から出た意見について、私たちの意見や気持ちを伝えています。子どもたちは頭も柔らかく、覚えもとても早いので、子どもたちと関わることは非常にうれしいです。区内の聴覚障害者で指導ができるのは4人程度で、その中で学校に行っているのは2人なので手分けをして対応しています。聞こえないことは不便ではあるが不幸ではないという事をいつも伝えています。

「視覚障害者の講義について」

朗読ボランティアグループさんざし 武村 桂子 氏

区内の福祉教育の相談には視覚障害者で話ができるのが区内で2人なので、手分けをして講義に行っています。視覚障害者が困っていることは移動することと情報を得ることが難しいという事を知っておいて欲しいと思っています。

授業では、「目が見えないということはどういうことか」と子どもたちに聞きます。「怖い」「何もできない」といった答えが返ってきます。では、どういう風に生活しているか、不便さをどのように補っているかなど便利な道具を見ても

らったり、私の場合には音声パソコンを使って色々なことができるという事を知ってもらっています。最後にまとめとして、「世の中には色々な人がいるということ。目が不自由な人、耳が不自由な人、高齢の人がいます。それぞれが違っていますが、相手のことを認め合って、相手の立場になって考えられる人になってほしい」と伝えています。

「福祉施設の受け入れについて」

指定障害者福祉サービス事業所 くりの丘 施設長 目崎 和枝 氏

くりの丘は平成25年に開所した障害者の施設です。養護学校を卒業した方々が通う場所がないという課題を受けて出来た施設で、何らかの介助が必要な障害者、50名が通所しています。日中を過ごす場として、ボールペンの組み立てや清掃活動、アルミ缶の洗浄など様々な仕事をしています。

くりの丘と学校の関わりは、隣が栗木台小学校なので、以前、3年生全員が班に分かれて、施設に体験に来てもらったことがあります。障害を持つ人たちの理解、地域には色々な人たちがいて、それぞれが色々な気持ちを抱えながら暮らしているということ、子どもの時から知ってもらえる機会を作るとは、とても大切なことだと思っています。また、社会福祉法人として福祉教育の場を提供していくことは責務だと思っていますので、ぜひ活用していただきたいと思っています。

「高齢者疑似体験について」

麻生東地区社会福祉協議会 高齢者福祉部 部長 日暮 照雄 氏

私たちは、毎年11月中旬の日曜日開催する「あさお福祉まつり」で柿生地区社会福祉協議会と共同で高齢者疑似体験を実施しています。毎年70～80名くらいの方が体験してくれます。子供たちからいただいた感想の中に、大変だった、辛かったというような意見があります。疑似体験の場合は体験が終われば、戻りますが、私の場合は戻らないのですが（笑）。急に70歳近くも年をとるわけなのでそれは大変なことなのだと思います。年をとると精神的にも身体的にも落ち込んでいきます。体験をしてくれた子どものお母さんが、今日の体験で大変さが分かったので、実家で一人暮らしをしている母親に電話をしようと思ったという感想があり、とてもうれしかった。疑似体験は二人一組でやると、介助する側と介助される側の両方の気持ちが分かるようになるので、とても良いと思っています。子どもたちには、体験をしたことを家に帰ってから、親にも話をしたいと伝えています。家族で年をとったときのことを考えるという事は家族の絆がますます強くする事になると思います。家族の絆が強くなれば、地域で暮らす様々な人たちにもやさしくなれるのではないかと考えています。

グループで懇談「福祉教育の意義と今後の展開について」

～児童・生徒に何を伝えたいか～

4つのグループに分かれて「学校で、地域でできること」をテーマに懇談しました。

グループ懇談では「毎年の流れ作業としてのカリキュラムではなく、生徒の心に響くような学習機会にしたい。でもどうしたらよいのかわからない。誰に相談すればよいかかわからない」など、忙しい学校の業務の中で企画内容に悩んでいる様子が語られていました。

また、地域から参加していただいた中に以前教員だった人がおり「車いすだ、視覚障害だ、とって福祉教育の種類をたくさん企画すればよいというものではない。忙しいのはもちろんわかるが、まずは先生自身が現場に足を運び感じて来なければ意味がないのではないかと。障害者は決して‘かわいそう’の対象ではなく、実際はタフに力強く生きている。

その姿を目の当たりにして、教師が自分自身の差別や偏見に気付いたならば、その言葉から生徒は多くのことを感じ取るはず。まずは先生が現場に行ってみてください。」とアドバイスがありました。



ある学校では「昨年度の福祉の授業では、全盲の武村さんと子供たちに一緒に遊んでもらい、子ども自身が武村さんのとの関係から感じてもらえるように設定した。福祉教育をありきたりな企画、単発のもの終わらせるのではなく、他の教育とリンクさせていきたい」との報告もありました。

また「福祉学習を単発の物ではなく、継続的な学習にしたい。できれば企画実施・振り返りと年2回は対面できる場を設定したい。しかし、学校の都合や依頼側への負担などを考えると難しい……。単発に終わらせないためにはどうすればよいのか悩んでいる」という意見に対して、地域包括支援センターの職員から、「包括支援センターでは認知症理解のための出張講座を行っており、継続学習の場として地域にある認知症カフェなどに学生が参加することもできる」との情報提供がありました。

参加した先生からは、「子供たちに福祉教育を行う上で大切なことを学ぶことができた」「地域の方々と連携が図れるように、学校側からも発信していきたい」などの感想がありました。また地域の方からは、「学校と地域が自由に行き来できるよう一緒に考えていける場が必要」「地域が多世代に渡ってつながり、そのつながりを教育の現場で活かすこと」などの提案がありました。

麻生区社会福祉協議会福祉教育推進委員会では、これからも「みんなでささえあう暮らしやすいまちづくり」の実現に向けて、福祉教育の推進に力を入れて取り組んでいきます。



福祉教育の今日的意義

田園調布学園大学 鈴木 文治

1. 「県立やまゆり園の障害者殺傷事件」をどう見るか

(1) 学校教育の視点から

- ① 人権尊重の観点
- ② インクルーシブ教育の視点

(2) 社会状況の視点から

- ① 排除と非寛容の社会
- ② 現在は戦時下？（ナチス・ドイツの時代との重なり合い）

(3) 障害とは何か

- ① 重複障害者は人なのか、物なのか
- ② 障害とは何か

2. 福祉教育とは何か

(1) 福祉教育の目的

① 福祉の概念

- ・ 福祉とは「幸せ」「豊かさ」を意味する言葉
- ・ 「welfare」は「良い暮らし」を意味するもの
- ・ 他人の幸せ、周囲の人を大切に作る心の育成

② 「共に学び共に生きる」理念

- ・ 神奈川県総合福祉政策（1984年）：統合教育を基盤にした教育のあり方の提言
- ・ 一人ひとりの違いを尊重する共生社会の実現に向けた教育活動

③ すべての人の生き方に関わる教育活動

- ・ 様々なニーズのある人との関わりの学習
- ・ 人のための活動よりも、共生社会の形成者育成の教育

(2) 学習指導要領に明記

① 平成11年度の学習指導要領の改訂：「総合的な学習の時間」の導入

- ・ 「生きる力の育成」のために課題解決学習の充実
- ・ その一環として、「福祉教育」の展開

② 学校側の課題

- ・「福祉教育」の位置づけが曖昧
- ・障害者や高齢者など様々なニーズのある人々への理解や対応の指導が困難
- ・不十分な「福祉教育」の実態

(3) 地区社会福祉協議会の役割

①学校側の取組を補完のため、施設設備・人材・機器を提供する目的で、「福祉教育」に関する取組が行われている。（平成16年度より）

②学校の福祉教育への支援

- ・障害や高齢の体験授業
- ・障害疑似体験の用具貸し出し
- ・障害当事者による障害理解教育
- ・福祉教育の教材教具一覧作成と貸し出し

③ボランティア養成と活動の支援

- ・福祉教育へのボランティア派遣
- ・児童生徒のボランティア体験の支援

(4) 福祉教育の今日的な意義

①インクルージョンの理念

- ・排除しない社会の実現に向けた取組
- ・様々なニーズのある人々が受容される社会（障害、障害者の言葉がなくなる社会）
- ・共生社会形成の教育（分けない教育）
- ・神奈川県インクルーシブ教育への展望

②福祉教育の新たな視点

- ・「無縁社会」に見られる人と人との絆の希薄さ、他者無関心の傾向
- ・排除と非寛容の社会のあり方への提言
- ・いじめ、不登校、ひきこもり、中途退学、非行などの教育課題を「インクルージョンの視点」から理解

③教育と福祉の連携（福祉職の導入）

- ・スクールソーシャルワーカーの配置（2008年日本で導入、全国で1100人）
家庭や行政、福祉機関との連携。子どもを取り巻く環境の調整
- ・特別支援教育における専門職の導入（PT, OT, ST, 心理士など）

④川崎市教育委員会、小・中学校・高等学校・特別支援学校の校長会と連携

- ・各学校における福祉教育の位置づけと推進

⑤麻生区と田園調布学園大学との協定に基づく事業

- ・高齢者対策（一人暮らしの高齢者の支援）
- ・ひきこもり対策（教育との連携）
- ・認知症サポーターの取組

平成 28 年度「小学校・中学校・高等学校の先生との福祉学習に関する懇談会」

アンケート集計結果

参加者 40 名 アンケート回答者 23 名 回答率 57.5%

1 所属を教えてください。

・学校	10 名
・ボランティア活動復興支援センター運営委員会	1 名
・地区社会福祉協議会	3 名
・麻生区社協各部会員	4 名
・福祉教育推進委員	3 名
・未記入	2 名

2 本日の懇談会について感想をお聞かせください

所属 学校

- ・子どもたちと福祉教育を行っていく上での、大切なことを懇談会や、講義を通して学ぶ事が出来ました。特に世の中にいろいろな人が居ること。だからこそ相手の事を思いやったり、相手の立場に立ったり、考えたりすることで、思いやりの気持ちが育つという事はとても勉強になりました。大変さだけに目を向けるのではなく、共に生活している事を感じていける授業を行なっていきたいと思います。本日はありがとうございました。
- ・多くの方々のお話を聞いた事、活動の一部を知る事が出来た事がとても良かった。
- ・教師と福祉関係の方で懇談ができたことはとてもうれしかったし、直接顔も合わせられたので正直ほっとしました。時間がもう少し欲しかったです。
- ・様々な立場の人と話ができて良かったです。今年の福祉学習について考えることがたくさん増えました。
- ・現在 4 年生を担当していて、これから福祉の学習をしていく上で、私自身が勉強させて頂きました。関係者の方々と交流する事ができて、要望などもお聞きする事ができて良かったです。
- ・このような機会はあまりないので良かったです。
- ・心の中で思っ(願っ)ていらっしやる貴重なご意見が聞けたと思っています。
- ・今日の会が大変勉強になりました。お話を(いろいろな立場の方)一度に聞けて、大変良かったです。
- ・講師の先生のお話は心に響き、福祉について、そして、インクルーシブについて、考えさせられました。考えてみれば、毎日が福祉教育をしています。たくさん子どもたちそれぞれが生き生きとすごせる教育の必要性を考えました。
- ・福祉教育という共通の概念について考えていながら、考えが多岐にわたることから、子どもたちと考える際には、焦点化してから、取りかかりたいと思いました。

所属 ボランティア活動振興センター運営委員

- ・グループワーク話し足りなかったです。はじめの講義は 10～15 分で良いと思う。導入講義：活動講義：グループワーク：休憩=1：3～4：4：1 くらいの割合希望。体験を入れることで、個別の交流を促してほしい。もっと個別に話せたらと思ったので。グループの分け方とても良かったと思います。多くの学校から参加していたことも良かった。区内全校出席して頂きたいですね。とても意義深い会だと思いました。ありがとうございました。

所属 地区社会福祉協議会

- ・グループ懇談の時間が少なくなってしまうことが残念でした。
- ・初めて参加しました。有意義な会でした。様々な所属の方々の活動や考えが聞けて、良かったです。
- ・先生方とのコンタクトの方法を考える必要がある。

所属 麻生区社会福祉協議会各部会員

- ・講義や、福祉教育の担い手の方達の講義を聞いて、視野が広がりました。
- ・教育の方々を含め、それぞれの考えなど知り合えてよかった。
- ・懇談会の趣旨を理解するのが遅く、前半は違っしまいすみませんでした。大変に勉強になりました。
- ・各現場で、諸々の福祉活動に活躍している人がいるのを知った。

所属 福祉教育推進委員会委員

- ・鈴木先生の講義は参考になりました。私の身近な友人のお子さんのことで悩んでいる方も多くいます。福祉を身近に感じ、自分の事としてとらえ、地域で取り組んで行きたいと思います。
- ・良かったです。
- ・先生たちの福祉への意識の高さに安心しました。鈴木先生の話が為になった。

所属 未記入

- ・参考になりました。
- ・大変勉強になりました。鈴木先生のお話は興味深く、アイデアを貰えました。また、グループでは、接しながら話を聞いて良かったです。

3 「共生社会」を実現するために、学校と地域の関わり方について、あったら良いと思うアイデアがあればお書きください

所属 学校

- ・学校行事（文化祭など）の機会を利用し、「共生社会」や、福祉についての活動を紹介していったらどうでしょうか。
- ・このような機会がもっとあればとてもうれしいです。
- ・学校が地域学習を深めて行く必要があると思います。
- ・学校の最寄りの施設との連携。

- ・繰り返しふれあえるように、学校側も福祉について考える時、助けてもらいたいです。
- ・もっと地域との連携をはかれるように、学校からも発信していきたいと思います。
- ・施設に行き、体験できる機会があると、子どもたち自身で考えはじめるのかなと思います。

所属 ボランティア活動振興センター運営委員

- ・区内高齢者サロンと、学校の継続交流。1年に1～2回くらい。(例 部活動の発表、自作のクリスマスカード、暑中見舞いの交換など→多世代サロン参加へ)
- ・学校ごとに「子どもの福祉教育を考える会」的なものの開催。少人数でもよいので、先生だけではなく、地域で福祉教育を考えるシステムを。

所属 地区社会福祉協議会

- ・年間を通してつながりを持つこと。まずは先生に知ってもらうことが重要。
- ・社協が中心になって、学校現場のニーズを知る事。また、学校現場のニーズを吸い上げ、その実現のための情報を流すことが大切。
- ・体験が時間かかるので、講話するのが良い。

所属 麻生区社会福祉協議会各部会員

- ・幼少時より、障害者や高齢者と関わる機会が持てるのは良いことだと思う。
- ・もっと自由に行き来が出来るといいと思います。その方法を一緒に考えていける場が必要。
- ・地域のたて、横が機層にも強固に繋がること。教育の現場で生かすこと。具体的ではなくてすいません。
- ・地域のまとめは自治会。自治会のレベルは様々。自治会のレベルアップ、人材の育成にも注力して頂けたら学校とのかかわりも情報共有もできます。

所属 福祉教育推進委員会委員

- ・地域の生徒と高齢者、障害者とのふれあい。地域教育会議の強化。
- ・子どもの時からの教育が大切。幼稚園から教育して欲しい。おじいさん、おばあさんとのふれあいを多くとるとか。
- ・支援級の子がいない学年の子との支援級との交流関係を作り、親にも理解してもらう関係を作る。

所属 未記入

- ・学校教育の中で、子どもたちにボランティアを体験させてほしい。

4 福祉教育(学習)について学びたいテーマがありましたらお聞かせください

所属 学校

- ・福祉教育(学習)として、現在行われている活動や、その内容について、紹介(発表)などを知りたい。
- ・「地域を基盤とした福祉学習」
- ・今日ご紹介があった、高齢者体験グッズを手にとって(できれば身につけて)みたいで

す。学校になかったもので。

- ・不勉強で、どのような切り口があるのかあまりわからないので、むしろ例示をしていただけると参考になります。

所属 ボランティア活動振興センター運営委員

- ・地区、市、県の活動紹介&麻生区では、どう取り入れられるか、学校、地区ごとに実際に計画を立ててみるワーク。
- ・地域のおつかい交流。(子どもがグループで買い物や、肩たたきなどのために、自宅訪問する機会を設ける)

所属 地区社会福祉協議会

- ・見えない障害 小学生、中学生にも理解し、接し方は?(自閉症、高機能、うつ等)

所属 麻生区社会福祉協議会各部会員

- ・命の大切さについて。
- ・行動障害における関わり方。
- ・基本はお互いに助け合う関係づくり。小、中、高の教育も大切ですが、地域とも地区社協とも連携して、地域を支える人材の育成を

所属 福祉教育推進委員会委員

- ・人のことを思いやる心を持続させるためには。生き方の根底に自他共の幸福を願う心を築いていくには。教育の大切さを体得できるような。
- ・人権教育について学びたい。

所属 未記入

- ・不登校や引きこもり。



ご協力ありがとうございました